

さめき水田営農だより

ヒノヒカリの品質向上に取り組みましょう

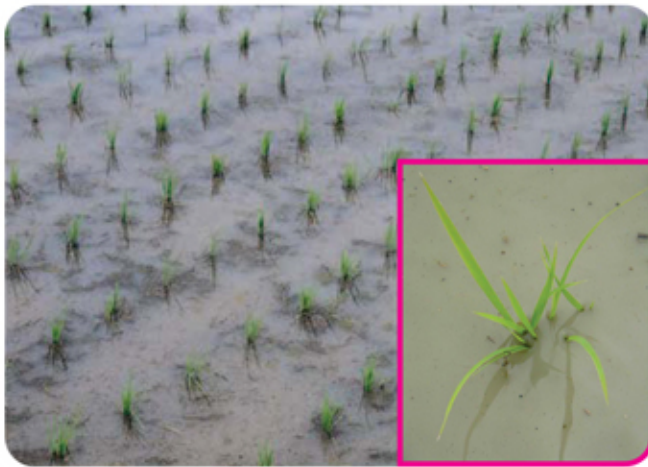
ヒノヒカリについては、長年作付けされている方が多いと思いますが、一度ご自分のほ場の栽培を振り返ってみてはいかがでしょうか？

栽培の無駄を少なくして効率よく栽培し、品質・食味の向上を図りましょう。

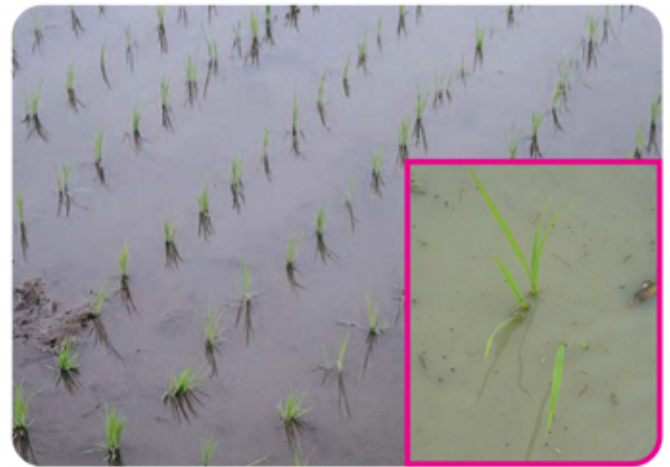
1 植付本数

1株当たりの植付本数が多いと、種子や苗箱数が多く必要になるだけでなく、病害虫の発生が多くなったり、収量低下の原因になります。

1株当たりの適正な植付本数は、3~5本です。



植付本数が多い(7~10本/株)ほ場の様子



植付本数が適正な(3~5本/株)ほ場の様子

2 植付けの深さ

田植え後できるだけ早く茎数を増加させ、穂数を確保するためには、苗の植付けの深さが重要です。除草剤の薬害防止の面からも、最も適正な植付けの深さは、3cm程度です。

3 株間(栽植密度)

株間(栽植密度)は、穂数や病害虫の発生に大きく関係します。また、植付本数と株間を適正にすることで、必要苗箱数を大きく減らすことができます。

しかし、必要以上に広い株間は、品種、田植時期、ほ場条件によっては収量が減少することがありますので、注意が必要です。

通常の田植機で対応できる適正な株間(栽植密度)は、

18~20cm(18.5~16.7株/m² 55~60株/坪)です。

4 施肥量

施肥方法によって、基肥の施肥量は異なります。

側条施肥(田植機に施肥機付き)の場合は、肥料が効率よく水稻に吸収されるため、基肥・穂肥の施肥体系では、栽培しおり掲載の基準量より原則2割減で施肥量の設定をしましょう。

食料供給力向上対策により水田の有効活用を図りましょう！

国際的な穀物需給のひっ迫等に対応し、国産農産物の安定供給体制を確立するため、水田等を有効活用して自給力・自給率向上に結びつく作物の需要に応じた生産拡大を推進します。(21～23年度)

水田等有効活用促進交付金

(新しく自給力・自給率向上に貢献しようとする取組への支援)

食料自給率向上のため、転作の拡大、調整水田への作付けなど、21年度から新たに自給力・自給率向上戦略作物(麦、大豆、飼料作物、米粉・飼料用米)を作付拡大した場合、拡大面積に対して助成金が交付されます。

【助成内容】

(単位：千円/10a)

助成対象作物	水田等有効活用促進交付金		水田経営所得安定対策成績払	助成金合計
	面積払	水田経営所得安定対策固定払相当額助成		
小麦(転作)	35(裏作は15)	27	9	71
はだか麦(転作)	35(裏作は15)	23	13	71
大豆	35	20	7	62
飼料作物	35(+13)	—	—	48
米粉用米・飼料用米	55	—	—	55

- (注) ・麦については、平成22年産から対象(別に20年度補正予算において21年産を対象にした対策を実施)。
 ・水田経営所得安定対策固定払相当額及び成績払の助成対象者は、水田経営所得安定対策の加入者。
 ・成績払の助成額は、品質区分を小麦1等Bランク、はだか麦1等Aランク、大豆1等とし、県平均単収で試算したもの。
 ・飼料作物の13千円/10aは、耕畜連携水田活用対策事業の助成金(上限)。
 ・米粉用米・飼料用米の単価のうち5千円/10aは、コスト削減等の取組に対する加算。
 ・大豆については、単収向上に資する数量的要素を加味(単収3俵以上の場合、3千円/俵(60kg)を加算)することが可。
 ・飼料作物にはWCS用稲を含む。
 ・水田裏作麦の作付拡大の場合には15千円/10a(助成期間：3年間)。畑不作付地への作付拡大の場合には15千円/10a(助成期間：1年間)。

【助成に当たり取組む内容】

- ・ 営農計画書を提出していること。
- ・ 生産調整実施者であるとともに、集荷円滑化対策の生産者拠出金を納付している者。
- ・ 20年産よりも対象作物の作付面積が拡大していること。
 - 〔原則として、20年に作物が作付けられている田畑に対象作物を作付けても拡大とはなりません。なお、景観作物、緑肥作物等が作付けられている田畑での対象作物の作付けは助成対象となります。〕
- ・ 実需者との播種前契約等による、需要に応じた生産を実施していること。
 - 〔麦・大豆：実需者と播種前に出荷契約を結ぶ。(JAと出荷契約をする。)
 飼料作物：畜産農家と利用供給協定を結ぶ。自家消費の場合には自家消費計画を策定し、自家家畜に供給。
 米粉用米・飼料用米：実需者と販売契約を結ぶ。〕
- ・ **低コスト生産を行うこと。(3～5ページ参照)**
- ・ 10a当たりの生産量が、地域の単収のおおむね8割以上であること。

産地確立交付金

(既存の産地づくりの取組への支援も継続されます)

- 産地づくり交付金を見直し、既存産地の創意工夫を活かした取組みを支援するため、地域が単価を設定する仕組みを維持しつつ、自給力・自給率向上に向けた効果が一層高まるよう所要の見直しを実施
 - ・ 調整水田等不作付地は助成対象から除外する等、自給力・自給率向上の観点から用途を重点化
 - ・ 他の地域協議会に比べ著しく高い助成単価は是正

低コスト化・高品質化技術に取り組みましょう!

水田等有効活用促進交付金の助成を受けるためには、低コスト化、高品質化につながる合計3ポイント以上(助成内容によっては4ポイント以上必要)の技術に取り組む必要があります。

香川県水田農業振興協議会では、本県の水田で取り組むことが望ましい技術として、下記の技術を定めました。(下記は主な技術で、これ以外のものもあります。)畑での取組等については、各地域協議会にお問い合わせください。

本年度の助成の申請書には、取組まれた技術について、下表の技術番号を記載する必要がありますので、このパンフレットは大切に保管してください。

● 麦 類 (小麦、はだか麦)

技術番号	技術の名称	備 考
●2ポイントの技術		
1	輪作体系の導入	香川県では、県の推進方針に示す輪作体系とする。
2	団地化	1の団地の場合は概ね2ha以上、2以上の団地の場合は概ね1ha以上の麦の団地化が図られること。中山間地域にあっては当該面積に2分の1を乗じた面積とする。
3	土地利用集積	当該農業者自らにより作業が実施されている、麦に係る水田・畑における作業面積が、概ね3ha以上であること。
5	本暗渠	
10	不耕起播種技術	
11	耕うん同時畝立て播種	
14	高度施肥管理	土壌診断・葉色診断に基づく施肥管理等。
16	気象情報を活用した適期収穫の実施	
●1ポイントの技術		
6	弾丸暗渠	
7	明渠	
8	土壌改良	
12	畝立て	
13	踏圧	
15	赤かび病防除	
ア	新品種等の導入	新品種等とは「さめきの夢2000」及びその後継品種・系統をいう。
イ	管理機を用いた防除等管理の実施	
ウ	低成分肥料の導入	技術番号[14](高度施肥管理)を実施した場合は、0ポイント。
エ	たい肥の導入・活用	
オ	耕うん同時施肥播種	
カ	浅耕処理による事前排水対策	
キ	稲わら鋤込み同時播種栽培	
ク	共同乾燥調製施設の利用	

● 大豆（白大豆、黒大豆）

技術番号	技術の名称	備考
●2ポイントの技術		
1	輪作体系の導入	香川県では、県の推進方針に示す輪作体系とする。
2	団地化	1の団地の場合は概ね2ha以上、2以上の団地の場合は概ね1ha以上の大豆の団地化が図られること。中山間地域にあつては当該面積に2分の1を乗じた面積とする。
3	土地利用集積	当該農業者自らにより作業が実施されている、大豆に係る水田・畑における作業面積が、概ね3ha以上であること。
5	本暗渠	
10	不耕起(狭畦密植)播種	
14	耕うん同時畝立て播種	
16	高度施肥管理	土壌診断・葉色診断に基づく施肥管理等。
●1ポイントの技術		
6	弾丸暗渠	
7	明渠	
8	大豆作前の緑肥作物の導入	
9	土壌改良	
ア	多目的管理機を用いた防除等管理の実施	
イ	中耕培土の複数回実施	
ウ	中期除草剤の散布	技術番号[ア](多目的管理機を用いた防除等管理の実施)を実施した場合は、0ポイント。
エ	収穫機の導入	汎用型コンバイン又はバインダーの導入。
オ	耕起・施肥・播種同時施行技術の実施	
カ	子実等水分測定による適期収穫の実施	
キ	畝間灌水の実施	
ク	土中水分測定に基づく灌水による肥効調節の実施	
ケ	病害虫発生予察等に基づく効率的防除の実施	
コ	無人ヘリコプターによる防除の実施(白大豆のみ)	
サ	麦わらの鋤込み	
シ	摘心(黒大豆のみ)	
ス	新品種の導入(黒大豆のみ)	新品種とは「香川黒1号」をいう。

● 米粉用米、飼料用米

技術番号	技術の名称	備考
●2ポイントの技術		
1	輪作体系の導入	香川県では、県の推進方針に示す輪作体系とする。
2	団地化	1の団地の場合は概ね2ha以上、2以上の団地の場合は概ね1ha以上で米粉用・飼料用米、加工用米、WCS等非主食用米の団地化が図られること。中山間地域にあつては当該面積に2分の1を乗じた面積とする。
3	土地利用集積	当該農業者自らにより作業が実施されている、米粉用・飼料用米、加工用米、WCS等非主食用米に係る作業面積が、概ね3ha以上であること。
7	直播栽培	
8	疎植栽培	香川県では、県の推進方針に示す輪作体系とする。
9	不耕起田植え技術	
10	高度施肥管理	土壌診断・葉色診断に基づく施肥管理等。
●1ポイントの技術		
4	大口購入等による資材費削減	
5	多収性品種の導入	香川県で導入を推進する多収性品種は、「タカナリ」、「ホシアオバ」、「夢あおば」、「モミロマン」とする。
6	温湯種子消毒による薬剤費の削減	
11	共同施設・機械の稼働率の向上	
ア	乗用型管理機を用いた防除等管理の実施	
イ	複合作業田植機による施肥・田植え・除草剤散布のうち、2作業以上の同時実施	側条施肥(同様の効果を有する液肥施用を含む)の実施は2ポイント、その他の作業の組合せは1ポイント。
ウ	麦わらの鋤込み	汎用型コンバイン又はバインダーの導入。
エ	たい肥等の導入・活用	
オ	低成分肥料の導入	技術番号[10](高度施肥管理)を実施した場合は、0ポイント。
カ	育苗箱全量施肥	技術番号[10](高度施肥管理)を実施した場合は、0ポイント。
キ	肥効調節型肥料の導入による省力化	技術番号[10](高度施肥管理)を実施した場合は、0ポイント。
ク	地力増進作物の導入による肥料コストの低減(21年産に限る)	地力増進作物は20年産に係る産地づくり対策の交付金の使途に位置づけられた作物であること。
ケ	フレコンによる肥料又は育苗培土の受入れによる資材費削減	

● 飼料作物（稲発酵粗飼料に限る）

技術番号	技術の名称	備考
●2ポイントの技術		
1	輪作体系の導入	香川県では、県の推進方針に示す輪作体系とする。
2	団地化	1の団地の場合は概ね2ha以上、2以上の団地の場合は概ね1ha以上で米粉用・飼料用米、加工用米、WCS等非主食用米の団地化が図られること。中山間地域にあっては当該面積に2分の1を乗じた面積とする。
3	土地利用集積	当該農業者自らにより作業が実施されている、米粉用・飼料用米、加工用米、WCS等非主食用米に係る作業面積が、概ね3ha以上であること。
7	直播栽培	
8	疎植栽培	
9	不耕起田植え技術	
10	高度施肥管理	土壌診断・葉色診断に基づく施肥管理等。
13	高性能ロールベアラーの活用	
●1ポイントの技術		
4	大口購入等による資材費削減	
5	多収性品種の導入	
6	温湯種子消毒による薬剤費の削減	
11	共同施設・機械の稼働率の向上	
14	収穫期の状況に応じた発酵促進剤の活用	

● 飼料作物（稲発酵粗飼料を除く）

技術番号	技術の名称	備考
●2ポイントの技術		
1	輪作体系の導入	香川県では、県の推進方針に示す輪作体系とする。
10	不耕起栽培	
12	高性能ロールベアラーの活用	
●1ポイントの技術		
9	優良品種の導入	優良品種とは都道府県の奨励品種をいう。
11	高度施肥管理	土壌診断・葉色診断に基づく施肥管理等。
14	優良品種の導入に基づく放牧 (単位面積当たり一定日数以上)	優良品種とは都道府県の奨励品種をいう。
15	鳥獣害対策	
16	中耕	
18	収穫時の状況に応じた発酵促進剤の活用	
ア	多目的管理機を用いた防除等管理の実施	
イ	刈取回数の増加による多収技術	
ウ	省力機械化体系の導入	
エ	WCS調製による乾物収量と栄養価の向上	
オ	耕うん同時施肥播種鎮圧	
カ	飼料作物・緑肥作物の同時播種による栽培技術	例)イタリアンライグラス+レンゲ
キ	立毛給与技術	
ク	たい肥施用による化成肥料の低減	
ケ	低成分肥料の導入	
コ	適期収穫によるWCS品質の向上	この場合のWCSとは、サイロ等の貯蔵施設により調製したホールクロップサイレージをいう。
サ	輪作と組み合わせた多回刈りによる多収技術 (冬作の多回刈り)	
シ	ロール・ラップ体系による省力技術の取組	
ス	たい肥施用による肥料コストの低減	
セ	低成分肥料の活用	
ソ	冬作牧草の収穫期延長による多収技術	

(参考)

香川県作付拡大推進方針に示す「本県で推進する主な輪作体系」

区分	作物の組合せ	適地等
1年2作	麦－水稻、麦－大豆、麦－飼料作物、 水稻－飼料作物、水稻－野菜、 飼料作物－飼料作物、飼料作物－野菜	県内全域

※水稻＝主食用米、米粉用米若しくは飼料用米とする。

排水良好なほ場の選定と適期播種により大豆の安定生産を図りましょう！

大豆は畑作物で湿害に弱く、排水の悪いほ場では発芽しなかったり、十分に生育しません。また、早く播種すると過繁茂になりやすく、いずれも収量や品質の低下を招きます。

排水の良好なほ場で適期に播種し、大豆の安定生産を図りましょう。



1 ほ場の選定と排水対策

- ・排水の良好なほ場を選定し、3年以上連作しない。(近年、排水不良田での発芽不良等による減収が見られます)
- ・明渠や暗渠などの設置によりほ場の乾田化を図る。

2 適期播種

- ・ほ場の乾き具合など、土壌条件の良い時に播種や移植を行う。
- ・播種適期は白大豆(フクユタカ)が6月下旬から7月中旬、黒大豆(香川黒1号)は播種を6月下旬に、移植を播種の約10日後に行う。

讃岐を再び「^{さと}麦の香る郷」に!

● 冬場の農地管理で収入を!

- 草管理のためだけに、耕起していませんか?
- 麦類を作付けすれば、雑草を管理しながら収入が得られます。
- 不作付地に新たに「はだか麦」を作付けした場合、最大で1反あたり9万6千円の収入(所得はこの1/2程度)が期待できます(個人認定農業者になるか、集落営農組織又は、1支店1農場に参加する必要があります)。



● 新たな機械投資は少なくて済みます!

- 麦類で使用する機械の多くは、稲用の機械を活用できます。

● 「はだか麦」なら後作水稻も問題なし!

- 5月中旬に収穫できるので、普通期水稻の田植えまでに1ヶ月あります。

● 内容についてのお問い合わせ先/

香川県農協中央会指導部指導課
香川県農政水産部農業生産流通課

TEL: 087-825-2503
TEL: 087-832-3418